

海外実地研修 11 日目 9 月 5 日 (ベルゲン)

本日はノルウェーのベルゲンにて自由行動を行いました。ここベルゲンはかつてノルウェーの首都でありハンザ同盟の貿易事務所が置かれた重要な拠点でした。現在でもノルウェー第二の都市として多くの人が暮らしています。



ベルゲン 1 日目の本日の朝は曇っていたため冷え込みました。本日は 10 時にホテルを出発しベルゲンの街を見渡すことができるフロイエン山にケーブルカーで登り全体を見降ろした後にベルゲンの魚市場に行き、ハンザ博物館を訪れました。

フロイエン山からはベルゲンの街を見渡すことができ、中世の街並みが保存されたブリッゲン地区や近年開発された地区が一目瞭然することができました。またかつての要塞跡で今も城壁が残っている箇所は、そこから周囲を一望でき、防衛拠点として築かれるだけあるなど思いました。ベルゲンは周囲を山々に囲まれた港町で、長崎を彷彿させるような印象も受けました。



フロイエン山を降りた後、魚市場に向かいました。魚市場は



観光客であふれており市場で働いている人も様々な国と地域からやってきているようでした。ここで販売されているものはどれもおいしそうでしたがまさしく観光地プライスといった感じで少し割高に感じられました。

午後 4 時 10 分にはハンザ博物館に着き、ハンザ同盟にて発展したこのベルゲンの街について学びました。

12 世紀以前から干し魚の輸出で栄えていた町でしたが 13 世紀にはいるとドイツ商人の手により、本格的な貿易の街へと発展していったそうです。その過程において、港にはいくつもの木造の倉庫が建ち並び、輸出入の際の保存場所として使われていました。その木造倉庫群をブリッケンと呼び、港付近に文字通り隙間なく建てられていましたが、いくたびの火災と戦争の影響を受けほとんどのブリッケンは焼け落ちていきました。残された数棟のブリッケンは今も保全され、1979 年に世界遺産に登録されました。

現在、残されたブリッケンの中はお土産屋さんやレストランとして使われ、観光客にも人気のスポットとなっています。緩やかな傾斜の坂に建てられているため建物自体が斜めに傾いており、今にも倒れそうに思え若干の恐怖を覚えました。

(田巻、中村、野尻)

